

会場のご案内



消化器疾患の患者さまの笑顔。
そんな、いい絵を描きたい。

消化器疾患で苦しむ人たちの
幸せに生きたい。自分らしくありたい。
その思いにしっかり応える私たちでありたい。
EAファーマは、
そんな未来の実現に向けて進んでいきます。



EAファーマは、消化器のスペシャリティ・ファーマです。

EAファーマは、エーザイグループの消化器事業と
味の素グループの消化器事業を統合・設立した製薬会社です。

EAファーマ株式会社
東京都中央区入船二丁目1番1号
<http://www.eapharma.co.jp/>



「第19回臨床消化器病研究会」開催のお知らせ

消化管の部 主題2 症例募集のお知らせ

消化管の部

[4セッション]

■ 8:50～10:20

主題1 「炎症性腸疾患(IBD)」

テーマ: 症例から学ぶ腸の炎症性疾患 Season 2

司会: 久松 理一 先生(杏林大学医学部 第三内科学)
平井 郁仁 先生(福岡大学筑紫病院 炎症性腸疾患センター)
病理コメントター: 九嶋 亮治 先生(滋賀医科大学 臨床検査医学講座)

■ 10:30～12:00

主題2 「消化管癌(形態学): 上部消化管」

テーマ: *H. pylori* 未感染胃の限局性病变

司会: 長浜 隆司 先生(千葉徳洲会病院 消化器内科)
藤城 光弘 先生(東京大学医学部附属病院 光学医療診療部)
病理コメントター: 二村 聡 先生(福岡大学医学部 病理学講座)

■ 12:10～13:00

主題3 「機能」

テーマ: 日常診療に役立つ機能性疾患

司会: 中島 淳 先生(横浜市立大学 肝胆膵消化器病学)
導入レクチャー: 眞部 紀明 先生(川崎医科大学 検査診断学(内視鏡・超音波))
講演1「好酸球性食道炎」: 藤原 靖弘 先生(大阪市立大学大学院医学研究科 消化器内科学)
講演2「NERD」: 眞部 紀明 先生(川崎医科大学 検査診断学(内視鏡・超音波))

■ 14:15～15:45

主題4 「消化管癌(形態学): 下部消化管」

テーマ: 小腸・大腸腫瘍性病变の鑑別と診断

司会: 大宮 直木 先生(藤田保健衛生大学医学部 消化管内科)
江崎 幹宏 先生(佐賀大学医学部附属病院 光学医療診療部)
病理コメントター: 八尾 隆史 先生(順天堂大学大学院医学研究科 人体病理病態学)
基調講演(小腸): 大宮 直木 先生(藤田保健衛生大学医学部 消化管内科)
基調講演(大腸): 江崎 幹宏 先生(佐賀大学医学部附属病院 光学医療診療部)
※症例検討3症例を予定しております。

肝胆膵の部

[3セッション]

■ 8:50～10:40

主題1 肝: 「肝細胞腺腫」

司会: 佐野 圭二 先生(帝京大学医学部 外科学講座)
中島 収 先生(久留米大学病院 臨床検査部)
画像コメントター: 角谷 眞澄 先生(信州大学医学部 画像医学教室)
基調講演: 米田 憲秀 先生(金沢大学病院 放射線科)

■ 10:50～12:40

主題2 胆: 「異時性胆管癌」

司会: 柳野 正人 先生(名古屋大学大学院医学系研究科 腫瘍外科学)
糸井 隆夫 先生(東京医科大学 消化器内科学分野)
病理コメントター: 全 陽 先生(神戸大学大学院医学研究科 病理学講座 病理診断学分野)
基調講演: 江畑 智希 先生(名古屋大学大学院医学系研究科 腫瘍外科学)

■ 13:55～15:45

主題3 膵: 「慢性膵炎の長期経過(5年以上)中に発生した膵癌」

司会: 植木 敏晴 先生(福岡大学筑紫病院 消化器内科)
清水 泰博 先生(愛知県がんセンター中央病院 消化器外科)
病理コメントター: 福嶋 敬宜 先生(自治医科大学附属病院 病理診断科)
画像コメントター: 廣橋 伸治 先生(大阪晩明館病院 放射線科)
基調講演: 入澤 篤志 先生(獨協医科大学 消化器内科学)

2018年7月28日(土) 8:45～16:00(予定)

ベルサール高田馬場 B2F「ホールA+B」
ホールA「消化管の部」、ホールB「肝胆膵の部」

〒169-0072 東京都新宿区大久保3-8-2 住友不動産新宿ガーデンタワー TEL 03-3208-0880(代表)

参加資格 オープン

会場費 3,000円

共催: 臨床消化器病研究会

〈事務局〉
「消化管の部」
岩手医科大学医学部 消化器内科消化管分野
「肝胆膵の部」
手稲深仁会病院 消化器病センター

EAファーマ株式会社
担当: 芦田 大輔 / 古屋 浩

臨床消化器病研究会HP <http://netconf.eisai.co.jp/rinsho-shokaki/>

第19回臨床消化器病研究会 「消化管の部・演題募集」について

消化管の部では、主題2で検討する症例を公募いたします。

消化管の部 主題2 症例募集

「主題のねらい」に即した症例があれば、「症例申込表」・「画像・病理データ」をCDに保存の上、事務局宛にお送りください。

※「症例申込表」は、臨床消化器病研究会ホームページ (<http://netconf.eisai.co.jp/rinsho-shokaki/>) より入手できます。

締め切り: 2018年5月18日(金) “消印有効”

送付先:臨床消化器病研究会(消化管)事務局
岩手医科大学医学部 消化器内科消化管分野 医局 宛
〒020-8505 岩手県盛岡市内丸19-1
TEL:019-651-5111(内 3239) FAX:019-652-6664
e-mail:imgast@iwate-med.ac.jp

※本研究会では、各セッションの様態をDVDに収録し、研究会終了後に希望者に貸出します。応募にあたっては、予めご承知おきください。

注意事項

1)「抄録」

※「臨床消化器病研究会 症例申込表」を使用し、以下の項目を必ずご記入願います。

- 演題名、所属、氏名
- 症例の要旨(400文字以内)
- 症例申込表とともに送付いただく資料の種類、枚数(資料別)

2)「画像・病理データ」

※パワーポイントで作成し、以下の画像・病理データをご提出願います。

- 画像所見(X線所見、内視鏡所見など)
- 切除標本所見(マクロ)
- 病理組織所見(ミクロ)
- その他、症例検討に必要な資料

※病理標本現物(プレパラート)は、送付しないでください。

3)「症例申込表」、「画像・病理データ」は、CDに保存の上、ご提出願います。

※今回、演題募集は主題2のみとなります。

主題1 「炎症性腸疾患(IBD)」

テーマ: **症例から学ぶ腸の炎症性疾患Season2**

司会: 久松 理一 先生(杏林大学医学部 第三内科学)

平井 郁仁 先生(福岡大学筑紫病院 炎症性腸疾患センター)

病理コメンテーター: 九嶋 亮治 先生(滋賀医科大学 臨床検査医学講座)

炎症性腸疾患の診断において内視鏡はゴールドスタンダードである。一方で実臨床では診断に迷う症例、類似の内視鏡像を呈する鑑別疾患、炎症性腸疾患+アルファ、などに遭遇し、内視鏡診断によって治療方針が異なる場合がある。

今回は、標準的な症例から難治例、鑑別を要する症例、などについて診断とそれに基づいた治療プランについて討議する。

主題2 「消化管癌(形態学):上部消化管」

テーマ: ***H. pylori*未感染胃の限局性病変**

司会: 長浜 隆司 先生(千葉徳洲会病院 消化器内科)

藤城 光弘 先生(東京大学医学部附属病院 光学医療診療部)

病理コメンテーター: 二村 聡 先生(福岡大学医学部 病理学講座)

対策型の胃癌内視鏡検診が開始され、クリニックから大学病院まで非常に多くの内視鏡検査が全国的に行われている。昨今の*H. pylori*感染率の低下もあり、*H. pylori*感染胃にみられる限局性病変で形成されてきた従来の診断学とは相入れない限局性病変に遭遇する機会が増加している。そのうち、胃底腺型胃癌については様々な検討会で取り上げられてきたが、その他の注意を要する限局性病変についての検討の場が十分ではない。今回、これらに焦点を絞った検討を行いたい。

主題3 「機能」

テーマ: **日常診療に役立つ機能性疾患**

司会: 中島 淳 先生(横浜市立大学 肝胆膵消化器病学)

導入レクチャー: 眞部 紀明 先生(川崎医科大学 検査診断学(内視鏡・超音波))

講演1「**好酸球性食道炎**」: 藤原 靖弘 先生(大阪市立大学大学院医学研究科 消化器内科学)

講演2「**NERD**」: 眞部 紀明 先生(川崎医科大学 検査診断学(内視鏡・超音波))

消化器日常診療では症状があるにもかかわらず内視鏡等で異常を認めない機能性消化管疾患は実に多いことがわかっていいる。実地臨床ではこのような内視鏡異常を認めない腹部症状患者をどう扱うかが重要である。今回の主題では好酸球性食道炎やNERDなどをどう鑑別して確定診断に持ち込むか、どう治療するかなどを、主題講演で国内の第一人者の先生方をお願いしている。必ずや日々の診療に役立つものと確信している。

主題4 「消化管癌(形態学):下部消化管」

テーマ: **小腸・大腸腫瘍性病変の鑑別と診断**

司会: 大宮 直木 先生(藤田保健衛生大学医学部 消化管内科)

江崎 幹宏 先生(佐賀大学医学部附属病院 光学医療診療部)

病理コメンテーター: 八尾 隆史 先生(順天堂大学大学院医学研究科 人体病理病態学)

基調講演(小腸): 大宮 直木 先生(藤田保健衛生大学医学部 消化管内科)

基調講演(大腸): 江崎 幹宏 先生(佐賀大学医学部附属病院 光学医療診療部)

※症例検討3症例を予定しております。

以前「暗黒大陸」と言われた小腸は、カプセル内視鏡やバルーン内視鏡の開発により、その診断・治療法はめざましく進歩した。しかし、小腸は腫瘍性病変の頻度は少ないものの疾患も多岐にわたり、炎症性疾患との鑑別に苦慮することも多い。一方、大腸の腫瘍性病変は上皮性腫瘍が中心となるが、他の腫瘍性病変に遭遇することも少なくない。このような疾患の診断においては、上皮性腫瘍の内視鏡診断の主流となっているIEEの有用性には限界がある。すなわち、小腸・大腸の腫瘍性病変を的確に診断するためには各画像診断モダリティから得られた情報を総合的に判断することが重要である。

そこで、本セッションでは基調講演と症例検討を通じて、小腸・大腸腫瘍性病変の鑑別診断の術を学ぶ場としたいと考える。